

平成24年度 千葉大学公開市民講座

房総の復興と祈り

— 房総の歴史と「記憶」 —

<開催日時>

2012年12月1日(土)
13:30~16:00

昨年3月11日、東日本を襲った大地震は、
今もなお私たちの生活を脅かすさまざまな傷跡をのこしています。
形の違いはありますが、先人たちもいくつかの大きな苦難を経験し、
そこから立ち上がって今日の房総を築いてきました。
今回の公開市民講座「房総の歴史と「記憶」」では、
「復興」と「祈り」というキーワードから、
房総の地を襲った2つの事件の歴史をひもとき、
これから生きる私たちの「記憶」として共有していきたいと考えています。

<開催場所>

千葉大学 西千葉キャンパス

千葉市稲毛区弥生町1番33号 けやき会館 大ホール

<論題Ⅰ>

平忠常の乱と房総

『亡国・亡幣』から『興復』へ

講師/樋口 州男 (ひぐちくにお)
NHK高校講座「日本史」講師
拓殖大学非常勤講師

<論題Ⅱ>

元禄地震と日蓮宗寺院

講師/佐藤 博信 (さとうひろのぶ)
千葉大学名誉教授

<主催> 千葉大学生涯学習企画室

<共催> 千葉大学地域観光創造センター

<後援> 千葉市教育委員会、千葉日报社



平成24年度 千葉大学公開市民講座

房総の復興と祈り

— 房総の歴史と「記憶」 —

【概要】

<論題Ⅰ>

平忠常の乱と房総

—『亡国・亡幣』から『復興』へ—

講師／樋口 州男 NHK高校講座「日本史」講師
拓殖大学非常勤講師

今からおおよそ千年前、長元元年(1028)から三年間にわたって房総半島を戦乱の地とし、その荒廃ぶりは京の貴族をして「亡国」(藤原実資『小右記』)と言わせしめた「忠常の乱」を取り上げます。同乱以前に起きた「将門の乱」を記す『将門記』巻末記事からうかがわれる「記憶」の連鎖、『今昔物語集』や源経頼の日記『左経記』に登場し、乱後の「復興」に尽くしたことで知られる藤原時重などについてお話しする予定です。

<論題Ⅱ>

元禄地震と日蓮宗寺院

講師／佐藤 博信 千葉大学名誉教授

元禄十六年(1703)十一月二十二日夜、関東南部を襲った「元禄地震」とその被害に向き合った日蓮宗寺院の「祈り」の営みについて取り上げます。この大地震の被害は関東の広範囲にわたっていますが、房総は津波によって最も多くの被害を被った地域です。こうした被害の「記憶」を、亡くなった人々への「祈り」が刻まれた文書や供養塔など、史料に沿って考えていきたいと思います。

【申込方法】

「房総の歴史と「記憶」受講希望」と記し、ご氏名(ふりがな)・住所・電話番号をご記入の上、以下の申込先へお送りください。お申込みの際にいただいた個人情報は、本公開市民講座以外には使用いたしません。

【申込先】

<郵送の場合>

〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33
千葉大学学生部教務課 宛

<FAXの場合>

学生部教務課／043-290-3606

<電子メールの場合>

kyoumu-renkei@office.chiba-u.jp

【受付期間】

平成24年10月15日(月)～11月9日(金)

※定員を超えた場合、お断りすることがあります。

入場無料／定員250名

<主催> 千葉大学生涯学習企画室

<共催> 千葉大学地域観光創造センター

<後援> 千葉市教育委員会、千葉日报社

平成24年度
千葉大学公開市民講座

参加申込書

フリガナ			
氏名		電話番号	
住所	〒		